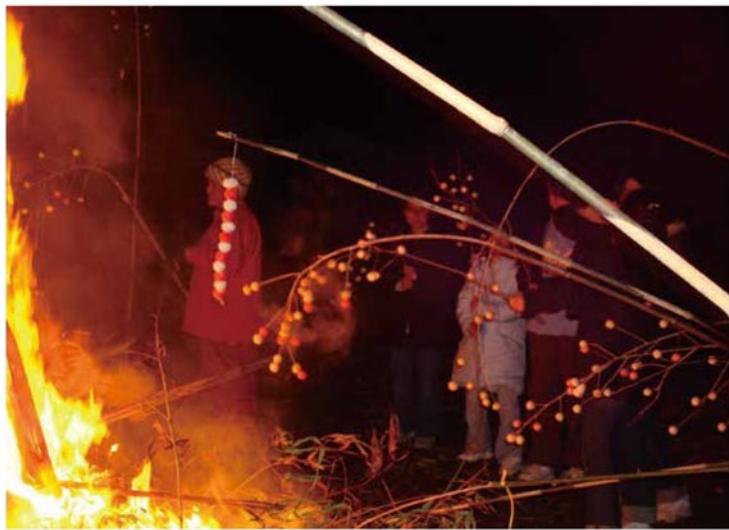


ドンドン焼きにコロナの収束を願う

栃木県立博物館 人文課長 篠崎 茂雄



ドンドン焼きの様子

ドンドン焼きは、1月月中旬頃に行う火祭りである。全国各地で広く見られる。竹や藁で円錐形もしくは立方体の小屋を作り、持ち寄った門松や注連飾りなどの縁起物と一緒に燃やす行事で、この火に当たると病気にならない、団子を焼いて食べると風邪を引かないなどと言われる。今から五十年ほど前になるが、筆者の住んでいた宇都宮市鶴田町でも子供会の行事としてドンドン焼きが行われていた。寒空に赤々と燃える炎はとてとて暖かく、団子を炙つて食べたこと

ドンドン焼き(ドンドン焼きともいふ)は、1月中旬頃に行う火祭りである。全国各地で広く見られる。竹や藁で円錐形もしくは立方体の小屋を作り、持ち寄った門松や注連飾りなどの縁起物と一緒に燃やす行事で、この火に当たると病気にならない、団子を焼いて食べると風邪を引かないなどと言われる。今から五十年ほど前になるが、筆者の住んでいた宇都宮市鶴田町でも子供会の行事としてドンドン焼きが行われていた。寒空に赤々と燃える炎はとてとて暖かく、団子を炙つて食べたこと

ドンドン焼きは主に関東地方で見られる呼称である。竹の弾ける時に出る「ドーン」という音、あるいは「尊い」を意味する「トンド」が語源と考えられているが、かつてはトリヤキ、そして作り物の小屋をトリゴヤと呼んでいた。また、ハーホイ、ドウロクジン、サイノカミと呼ぶ地域もある。このうちハーホイは害鳥を追い払う時の掛け声、ドウロクジンやサイノカミは、集落の境にあつて悪疫などの侵入を防ぐ神をいう。そして、トリヤキやトリゴヤも意味深長な呼び名である。こうしたことからも、ドンドン焼きは、神聖な火の力で、田畑に害をなす鳥や悪疫の退散を願う行事といえる。

ところで、ドンドン焼きの主役は子どもである。かつて、小屋の骨組みとなる孟宗竹の収集や松飾りの回収、小屋の組み立てといった一連の準備は、子どもだけで

は、今でもよく覚えている。その後、ドンドン焼きが行われた広場は宅地となり、いつしか行事はなくなってしまったが。

ドンドン焼きは主に関東地方で見られる呼称である。竹の弾ける時に出る「ドーン」という音、あるいは「尊い」を意味する「トンド」が語源と考えられているが、かつてはトリヤキ、そして作り物の小屋をトリゴヤと呼んでいた。また、ハーホイ、ドウロクジン、サイノカミと呼ぶ地域もある。このうちハーホイは害鳥を追い払う時の掛け声、ドウロクジンやサイノカミは、集落の境にあつて悪疫などの侵入を防ぐ神をいう。そして、トリヤキやトリゴヤも意味深長な呼び名である。こうしたことからも、ドンドン焼きは、神聖な火の力で、田畑に害をなす鳥や悪疫の退散を願う行事といえる。

ドンドン焼きは、草木が芽吹き始める1年で最初の満月の夜に、五穀豊穣や悪疫退散を願って行う火祭りである。現在となつては、元に戻すことはできないが、ドンドン焼きの意味は心の中にとどめておきたいものである。